

年次
総会

民主社会主義の仲間として政界をリードしよう

民社協会年次総会が4月1日午後2時より、東京都港区の東京グランドホテルで開かれ、本部役員、地方・産別の代議員など130名が出席した。

総会は田中慶秋常務理事の開会挨拶に始まり、物故者への黙祷が行われた後、総会議長として東日本代表の斉田宗一代議員（東京）、西日本代表として坂田緑郎代議員（京都）を選出した。

最初に米沢隆会長が挨拶に立ち「民主社会主義の仲間として政界を眺め、リードしていく存在であり続けたいという気持ちで頑張っしてほしい」と述べた。（別掲）

また来賓の高木剛友愛連絡会会長が祝辞で、「所属国会議員が民主党、自由党に分かれているが、同じ民社協会のメンバーとして政治に臨む理念・哲学など、ルーツとも言うべき部分は共有していただけると信じていきたい。当面の課題は来るべき総選挙と来年の参院選だ。これらの準備に向け、従来以上に相互の連携を強めながら戦い抜いていくことが重要だ」と述べた。また出席できなかった政策研究フォーラムの堀江理事長からの「本年は総選挙の年に当たり、協会の役割は極めて重大。全組織をあげて戦うことを期待する。その結果いかに21世紀の日本を決定づける」とする祝辞が披露された。

続いて議事に入り、報告事項では平成11年度活動報告が真鍋貞樹事務局長から、平成11年度会計報告が杉野正治事務局長次長から、会計監査報告が水木芳徳監事（全郵政）か



ら、それぞれなされた。

引き続き提案に移り、平成12年度活動方針案が真鍋事務局長より、平成12年度予算案が杉野事務局長次長より、規約改正案が真鍋事務局長より、第42回衆議院選挙対策案が伊藤郁男理事より、それぞれ提案された。（別掲）

一括質疑では下田文男代議員が、「現在の政治・社会情勢からすると協会の存続は当然だと理解している。存続を明確にした点は大変結構なことだ。この点について所属国会議員はどのように考えているのか。また政策調査研究基金について、その用途を具体的にはどのように考えているのか」との質問があり、協会の存続については米沢会長が「これまでの情勢の変化の中で、協会の存続について侃々（2ページに続く）」

米沢会長挨拶（要旨）

かねて厳しい環境の中で、あるいは政局定まらぬ中で、それぞれ地方で一所懸命頑張っておられる皆さん方に、心から敬意を表したい。

解散の時期はまだ定まっていないようだが、選挙の日程が決まらなると、エネルギーの集中の度合いが難しいということもあって、ご苦労されていると思う。しかし10月までの間には必ず選挙がある。民社協会所属の皆さんが全員当選を果たすよう、皆さん方の縁の下での力持ちとしての力いっぱいのご支援とご協力を賜るようお願いしたい。

民社協会は政治団体であっても政党ではない。各単産が連合の中で合併・統一されたり、あるいは民社協会から退会される状況が続く、発足時6万人いた会員が、いまは3万8千人となっている。その分財政的にはますます厳しくなっているのはご案内の通りだ。かといっ

ても非常に難しい。そういう状況の中で、今後民社協会がどうあるべきかという理想論を述べるのも簡単だし、このままやめると言うのも簡単だ。しかしその中で、われわれ民社協会は、ぎりぎりの中で民主社会主義の仲間として、これから政界を眺め、リードしていく、そういう存在であり続けたいという気持ちで、頑張っただいただいているものと確信している。

そういった背骨をしっかりとした中で、この総会での議論を真摯に行っていただきたい。

